

よかところ通信



2007年2月・追悼号

オーツファーム 大津励志+耕太&愛梨
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併 589
Tel&Fax : 0967-62-3730
E-mail: o2farm@aso.ne.jp
O2FarmWeb : www.aso.ne.jp/reisi
ID = 【o2farm】 & パスワード = 【yokatoko】

トピックス

- 1月29日早朝、大津鼎が他界しました。
- 大正生まれの享年83歳。
- じいちゃん、ありがとう、さようなら。

暖冬ではありますが、1年でもっとも寒いこの季節。皆さまお元気でお過ごしでしょうか。

さて、私事ではありますが、去る1月29日に、祖父・大津鼎（かなえ）が永眠いたしました。享年83歳。家族に看取られ、眠るように息を引き取りました。まことに勝手ではありますが、今月は大津鼎、このあとはいつもどおり「じいちゃん」でいきます、の追悼号にさせていただきます。

生まれは大正12年。農家の長男として10人兄弟を取りまとめ、また家長として大津家を守った生涯でした。学校の成績が良かったので進学を希望するも、父の反対で断念。「もしかしたら東大にいていたかも・・・」と名残惜しそうに繰り返すじいちゃんを、「東大にいていたら、今ごろ官僚になって不正でつかまっていたかもよ!？」とからかう耕太。会話や行動のはしばしに頭よさを感じる人でした。

若い頃はずいぶん厳しい夫であり父だったようです。私たち夫婦が阿蘇に来て農業をしたいと言い出したとき「今さら百姓じゃ食っていけん」と言って一番反対したのもじいちゃんでした。後継者がいない事を誰よりもうれいていたはずなのに。本当は喜んでいるのが顔に出ているのに。いざ私たちが農作業をはじめてみると、よほど気がかりなのでしょう。変装のつもりか、帽子を目深にかぶって田んぼを覗きに来るじいちゃん。私たちが本気であることが分かれると「農業はいいだろう?」とすまし顔。あれ、反対していたのは誰だっけ!? 曲がった事が嫌いで、思い立ったらすぐ行動。猪突猛進の猪年生まれ。今年は何年でした。桔平と連蔵に「バカ爺」と呼ばれるまでは生きていたいと言っていたのに...。大往生とはいえ、悲しみは尽きません。



耕太の稲刈りに満足そう

それにしても田舎の葬儀はスゴイ。仮通夜に本通夜に告別式の3連チャン。その後は初七日（なのか）二（ふた）七日、三（み）七日、四（よ）七日・・・と四十九日の七（しち）七日まで、毎週お坊さんが来てお経をあげ、お膳を出します。お通夜と告別式は斎場でしたが、仮通夜と初七日の法要からは自宅で。80人分ものお膳を用意し、皆で故人を偲びました。こうした風習を知らずに育った私にとっては驚きの連続。いろいろ勉強になりました。



(左) 近所の人を手伝ってお膳の準備 (中) 煮しめや豆、酢和え等の7品目 (右) 初七日の様子

山仕事が大好きだったじいちゃんの甲いを兼ねて、耕太が竹林の管理をしました。農作業の少ない冬場は、山仕事の季節。特に竹林は、手入れをしないとすぐに荒れてしまいます。荒れた竹林は「サルも入れない」と言われるほどぐちゃぐちゃになり、日本の原風景とも言える美しい竹林とはかけ離れた姿になってしまいます。台風があった年は、風で倒れた竹がたくさんあるのでそれを取り除きます。「焚きもん(竹の薪)ならぐっさり(=たくさん)あるぞ」というのがじいちゃんの口癖でした。農村ではよく見かける薪と灯油が併用できるボイラー。このボイラーに竹の薪をくべると、20分ほどでお湯が沸きます。朝から山に行き、昼は薪用に竹を割り、夕方には焼酎を飲みながら水戸黄門を見て、それが終わると風呂のお湯を沸かすのがじいちゃんの日課でした。



じいちゃんとはあちゃんが植え、手塩にかけて育てた杉材でひ孫の鯉のぼりを建てたのは去年の事。じいちゃんにとってもよい思い出となったことでしょう。じいちゃんがいなくなったことで空いた穴は大きいものですが、こればかりは順番ですからどうしようもありません。残ったもので力を合わせ、山や田畑、村を大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、祖父が生前お世話になった皆さまには、この場を借りて心からお礼申し上げます。今後とも O2 ファームをよろしく願いいたします。暖かい冬とはいえ油断は禁物、寒い日もまだまだ続きます。皆さまインフルエンザやノロウイルスにはお気をつけ下さい！



お知らせ

3月18日は、故・鼎の四十九日法要のため、3月分のお米の精米と発送は17日とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。